

5年間の 活動の 記録

里親家庭で暮らす 子ども達の応援

「青少年の健全な育成に貢献する」という当財団の目的の具体化のため、厳しい環境にある子ども達を応援できないかを考える中で、最初は「こども食堂」を検討しました。しかし、具体的にその実施について検討すると、それは容易ではないことも分かってきました。

そんな中、様々な事情により、実の親と暮らせず、里親のもとで暮らす子ども達が少なからずいることを知り、そういう境遇のなかでも強く、元気に、逞しく、立派に育ってくれることを応援するのも当財団の目的に合致すると考えました。

そして、福岡市城南区、早良区の里親さん達が年に1～2回程、集まってあることを知り、その場で何かしら応援することができないかと考え、日ごろ触れることの少ない体験の場の提供を通して、応援していくこととしました。

平成31(2019)年3月、その第1回目として、里親会が開催した「進級お祝い会」の場で、目の前で寿司職人が握る「寿司の振る舞い」を行いました。大好評であったことから、翌年、令和2(2020)年1月に開催された「新年会」の場でも同じく寿司の振る舞いを行い、さらに日本の伝統文化にも触れてもらおうと「落語鑑賞」を行いました。

その後、新型コロナウイルス感染拡大のため、里親会の集いも開催されない中、どういった応援ができるかを考え、子ども達に大好評であった寿司を家で味わってもらおう、自粛生活が続くなか、寿司で笑顔になってもらおうと、同年12月に各家庭に寿司を届けました。届けるにあたっては、「食べたい寿司を食べただけ」と食べたい寿司を各家庭に聞き、合計1,000貫に近い寿司を9家庭へ届けました。

この応援活動は、子ども達に将来を考えるきっかけともなるような体験の場となることを期待し、今後も様々な体験の場の提供を通して、応援していきたいと考えています。



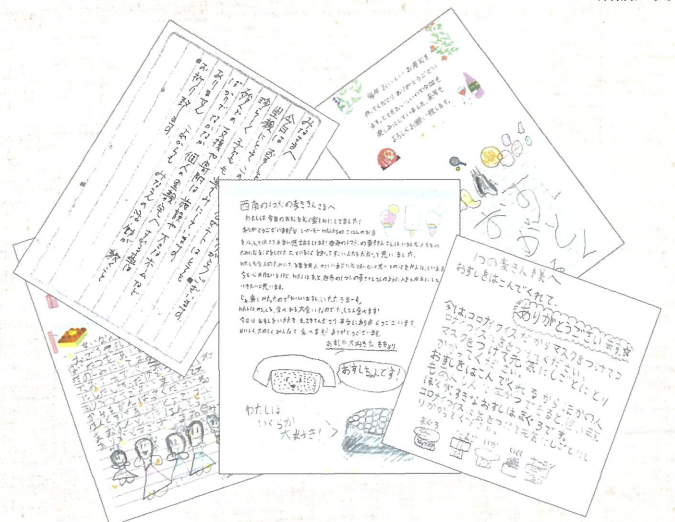
寿司の振る舞い



寿司職人が握る様子を見る子ども達



落語鑑賞



子ども達や里親さんからいただいた手紙